

音楽を形づくっている要素を基に 児童の学びにつなげる



POINT 1 指導と評価を一体化する

音楽科での学習評価とは、「演奏や作品が上手にできたか、そうでないかの判定」ではありません。「どういう指導をした結果、どうなったか？」を見取ることです。そのために、以下の3点を大切にしましょう。

- ① 学習指導要領解説の〔共通事項〕
- ② 「曲を教える」のではなく「曲で教える」
- ③ 音楽を形づくっている要素の知覚（聴き取ったこと）・感受（感じ取ったこと）

〔共通事項〕

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

（思考力、判断力、表現力等）

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。（知識）

POINT 2 児童が試行錯誤しながら創意工夫する

音楽を形づくっている要素を基に、音や音楽を介して、友達と試行錯誤しながら創意工夫する場面を設定しましょう。出来栄えだけに注目するのではなく、児童なりの創意工夫の場면을重視します。演奏したり歌ったりする学習が苦手な児童でも、思いや意図をもち、創意工夫をすることにより学習への意欲が高まります。この学習でも、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとしましょう。そして、自らの思いや意図が、聴き手に音楽で伝えることができる学習の深まりが求められます。

＜音楽を形づくっている要素＞

ア 音楽を特徴付けている要素
音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど

イ 音楽の仕組み
反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など

ここは、元気な感じ（感受）を表現したいから
少し速く（知覚）演奏するね！



ここは、弱く（知覚）演奏しているからやさしい感じ（感受）に聴こえるね！

POINT 3 児童の学びをイメージする

この学習で『学び』をどこに設定するかを計画しましょう。楽しくなければ音楽ではありません。しかし、楽しいだけではいけません。学びの広がり求められます。

- ① それぞれの活動において、ねらいを意識した授業づくりを意識する。
- ② 題材において身に付けるべき「知識」「技能（表現領域のみ）」を確認する。
- ③ 「この時間に児童が何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」をイメージする。

5学年

「曲の特ちょうをとらえて 歌唱表現しよう」

音楽科実践事例



A 表現(1)歌唱

歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌唱表現する。

教材：「すてきな一歩」 長井理佳 作詞 長谷部匡俊 作曲
「翼をください」 山上路夫 作詞 村井邦彦 作曲

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。</p> <p>②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。</p>	<p>思 ①旋律、強弱、反復、変化を聴き取り、それらと歌詞の内容や旋律の動きとの関わり合いを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 ①曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。</p>

POINT1 音楽を形づくっている要素を選択する

思考・判断のよりどころとなる、主な音楽を形づくっている要素「旋律、強弱、反復、変化」を選択し、それらに関連付けて指導している。そして、それを指導するのにふさわしい教材を扱っている。

〔共通事項〕に示す「音楽を形づくっている要素」

音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など

POINT2 言語活動を適切に位置付ける



旋律のまとまりごとにふさわしい歌い方について、どのように工夫したらよいか話し合いを設定した。そのとき、それぞれの工夫を歌って試してみるなど、言語だけの活動にならないように、音や音楽を介した言語活動が大切である。そして、常に音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとし表現を工夫させた。

POINT3 実感を伴って理解できるようにする

常時活動は、本時の学習のめあてに沿って取り入れ、展開につなげることが効果的である。また、児童が思いや意図をもって、表現を工夫した演奏を録音するなどをして客観的に聴き、その表現を工夫したことが聴き手に伝わっているか実感できるようにした。伝わっていなかった児童には、なぜ表現を工夫した部分が自らの演奏で聴き手に伝わらないのかについて考えさせ、技能の習得へとつなげた。